

サザンクロス

vol.13

KENAN HOSPITAL
OFFICIAL INFORMATION PAPER

November.1.2010

(和歌山県版)

がん診療地域連携クリティカルパスはじまる！！

厚生労働省は、がん治療の均てん化を目指して全国にがん診療連携拠点病院を選定しました。社会保険紀南病院も地域がん診療連携拠点病院に選定され、同質でしかも質の高いがん医療を提供するように努力しています。

このたび、その一環として、五大がん(胃がん、大腸がん、肝臓がん、乳がん、肺がん)について「がん診療地域連携クリティカルパス」を作成しました。この地域連携パスは和歌山県統一で、和歌山県のがん診療連携拠点病院で同一のパスが運用されます。

このクリティカルパスでは、治療計画が標準化されていて、医師によるばらつきが少なくなります。また、がん診療連携拠点病院等(「計画策定病院」とかかりつけ医(「連携医療機関」とが共同で患者さんを診ることにより、複数の医療従事者が情報を共有できることにより、迅速かつ臨機応変な対応が可能になります。

患者さんにとっても、遠方の拠点病院への頻回の通院の負担を減らすことになり、利益が大きいと考えられます。



外科部長
長岡 眞希夫

肺がんについては、すでに先行して開始されていて、このたび、残りの4つのがんについて11月より運用が開始されます。これからも、よりよい医療を提供できるよう努めていく予定ですので、関係各位には御協力をよろしくお願い致します。

がん(胃,大腸,乳,肝,肺)地域連携パス運用方法

社会保険紀南病院(外来診察)

◆血液検査結果報告用紙を、診療情報提供書とともに患者さまへ渡します。(かかりつけ医へ診察の時に提出してもらいます)

地域医療連携室

- かかりつけ医からの情報を各診療科医に連絡。
- その他情報提供や連携。
- 今後の心配事についてもご相談に応じます。

患者さま

検査結果や必要な書類は「わたしのカルテ」に追加して挟んでください

かかりつけ医

1. がん地域連携パスに沿って、日常診療をおこないます。
2. 紀南病院受診時に必要な血液検査結果等が入った診療情報提供書を患者様に渡し、病院受診時に提出してもらいます。



医療の現場から

1. 感染管理認定看護師(Infection Control Nurse以下ICN)になるきっかけ

私が感染に関わるようになったのは、H13年に看護主任となった時からです。当時は、主任になれば感染リンクナースを兼任するのが決まりで、毎月の会議や衛生材料の検討、感染防止マニュアルの作成、手洗い啓発ポスター作成などに携わってきました。けれど、「感染管理」や「認定看護師」という認識にはほど遠いものでした。

しかし、H19年当時の看護部長に、「ICNの資格を取ってもらえないか?」と依頼され、それをきっかけにICNとしての活動や教育課程への受験勉強にはどのようなことをするのかなど情報を得るに従い、病院にとってICNがどれだけ重要で必要な仕事なのかという事がわかりました。そして、昨年10月愛知医科大学ICN教育課程に入学、6ヶ月の教育を受け、H22年5月認定試験に合格することができました。H22年9月1日現在での全国ICN数は1179名で、和歌山県は11名となりました。

2. ICNの役割

感染管理とは、患者や看護師だけでなく、病院にいる全ての人々が、病院に関連した感染を受けない環境を整え、感染症の予防と低減に努める事です。その為には、感染管理に関するプログラムを立案し実施、推進、評価、改善する事が必要となります。

感染管理プログラムとは、(1)感染管理システムの構築(2)病院感染サーベイランス(3)エビデンスに基づいた感染防止技術のマニュアル作成(4)感染管理教育(5)職業感染管理(6)感染管理に関するコンサルテーション(7)ファシリティ・マネジメントなどの7項目があり、自施設に合ったプログラムを作成し推進しています。

3. 日々の活動の中で

この4月から依頼のあった相談件数は、8月末で61件に上り、どれだけ感染に対する疑問や不安があったのかと考えさせられました。また、毎日のラウンドを通して、根拠に基づいた感染対策が不十分な場合もあり、安全・安心な感染対策を実施する為には、専門的知識が必要で、現場のリンクナースと連携し、スタッフの皆様と共に感染管理を進めていく必要がある事を痛感しました。

病原体は目に見えない為軽視されやすいですが、一旦感染が広まってしまうと取り返しがつきません。ICNとして未熟で暗中模索な状態ですが、自分の出来る限りの努力をしています。感染に関する重要性や必要性を理解し、皆様の協力をお願いします。



感染管理認定看護師
中本千秋

病院機能評価 (評価項目 Ver.6)

認定の報告

紀南こころの医療センターは、病院機能評価 Ver.4の認定期間更新に伴いVer.6の審査を受け認定されました。

平成22年3月10日から12日にかけての3日間日本医療機能評価機構の訪問審査を受け、同年7月7日に訪問による補充的な審査を受審し、その結果として認定されました。9月に認定証が届きましたので報告します。



看護学校だより

9月2、3日に1、2年生は教育研修がありました。自主性・協調性を養うと共に、レクリエーションを計画する基礎的知識を身につけることを目的として企画・運営されました。学生がクラス皆で協力して、食事の準備やレクリエーションを行い学生間の交流も深まりました。



10月1日 秋晴れの中、田辺消防署の消防士さんにご協力をいただき、防災訓練を行いました。

消火器を用いた消火活動や屋内消火栓設備を用いた放水などを体験し、初期消火活動の大切さや防災意識の向上につながったと思います。

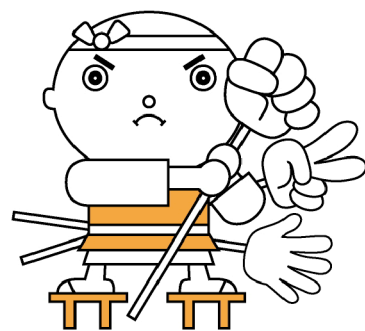
地域医療連携だより



榎本産婦人科
番 浩

こんにちは小児科の番です。紀南病院在職中の15年間は皆様にお世話になりました。また退職後も様々な患者様を受け入れていただいていますので安心して診療を続けることができます。ありがとうございます。

本日は、当院で行っている病児保育(施設名「じゃんけんぼん」)をご紹介します。田辺市の健康支援一時預かり事業で、補助金を受けて運営しています。病気の急性期から回復期で集団保育が適当でない(かつ入院を必要としない)田辺市在住のお子さんが対象です。ただ預かるだけではなく、お子さんの状況に応じた保育を行いながら病後の早期回復に努めます。



じゃんけんぼん

前もって全国病児保育協議会に入会し、様々な情報を得ました。平成19年、医療法人榎本産婦人科で小児科を再開するにあたり、病棟3階の1室を改装し、また保育士を新規採用して、県内で初めての医療併設型病児保育室を立ち上げました。定員は2名で、利用時間は9時から17時です。利用料金は¥2,000(半日¥1,000)で、給食はありませんのでお弁当を持ってきていただきます。朝(入室時)と夕(退室時)に小児科外来で診察をし、必要に応じて吸入や点滴をしたり内服薬を処方します。



榎本産婦人科

利用児は、インフルエンザ、おたふくかぜなどの伝染性疾患や気管支炎、咽頭炎、急性中耳炎などですが、ほぼ全員が感染症であり、複数名同時に預かるには交差感染の予防が必要です。例えばおたふくかぜと水痘では、既往歴がなければ早い者勝ちという状況です。

今後利用者数が増えるようなら個室形式に改装し、対応したいと考えています。利用者数は月平均7名で、稼働率は16%です。補助金は利用が少なくても出ますが、開設前の予想を大きく下回っています。個室問題と開始時刻の遅いことが課題と考えています。

今後も利便性を高めるよう取り組んでいきたいと考えていますので、どうぞご利用ください。

文字に綴られない詩

「医療再生フォーラム21」は2010年9月に「医療崩壊の第一の原因は医療費抑制政策、第二の原因は国民にわかりやすい説明を行わなかった医療者自身である」という声明を出した。理解はできるが、高齢社会で治癒の望めない患者が増加する中、「文句を言ったもの勝ち」の世相を反映してか、自分の要求ばかりの人、言いがかりをつける人、あら捜しをする人まで現れ、医療者側にだけ責任を負わせることはできない。医療は複雑系で、医療崩壊の原因は説明責任ばかりでなく、社会構造の変化も大きい。しかしいつの時代にも病気になった人は、苦痛の少ない医療と心の安らぎを求めていることに変わりはない。同じなら患者さんが喜び、治療に直結する夢のある研究をしよう、と開発を始めたのが体外式カウンターパルセーションである。急性心筋梗塞患者の下半身を特殊なゴム製の袋で覆い心拍に同期させて、収縮期には-45cmHgの陰圧を、拡張期には50Kg/cm²の陽圧をかけた。心拍出量が増加し、期待した臨床効果は得られたが装置がコンパクトにならなくて商品化は断念した。大動脈内バルーンポンピング(IABP)に比べ体内にカテーテルを挿入しなくてすみ、非侵襲的な、やさしい治療であることから最近また注目を浴びている。

病院長 山本忠生

体を温めて心疾患などの治療を行う「和温療法」も痛みのない治療である。治療は、60度の低温乾式サウナで15分間全身を温め、その後、布団や毛布でくるみ、深部体温を約1度上昇させる。その結果、副交感神経を刺激し、全身の血管を広げ、心臓のポンプ機能を向上させる。開発者の鄭教授によれば、この治療は安全で副作用はほとんどなく、「和温療法」のコーナーはいつも笑い声があふれているそうだ。医療現場では良い治療法が見つからず、手をこまねているだけのことも多い。病気の内容を説明して治療するだけでは、心の安らぎはなかなか得られない。治らない病気では、患者さんは心に抱いた不安を迎撃つか受け入れるかどちらかしかできない。一方医療者ができるのは、患者さんの話を聞いて痛いところをさするくらいである。「医療はアートであり、文字に綴られない詩であり、ロマンである、心にロマンを持ちなさい。」というのは恩師の言葉である。文字は言葉に及ばない、言葉は態度に及ばない。なによりも患者さんの心に響くのは医療者のちょっとした表情であり、仕草である。患者さんや家族の表情から安心と安らぎの反応が読み取ればそれが一番すばらしい。

第27回市民健康講座について

食生活の欧米化に伴い、『閉塞性動脈硬化症』にかかる患者様が増えています。この病気になると、足先にしびれがおこり、歩行が困難となり、場合によっては足を切断しなければならない事もあります。予防のために、この機会に正しい知識を身につけませんか。

日 時 平成22年11月21日(日)
時 間 午後2:00~3:00
会 場 紀南病院 3階講堂
演 題 閉塞性動脈硬化症
 ~どんな病気?~
演 者 奥本 泰士 (循環器科医長)

第26回市民健康講座について

平成22年9月12日(日)に、「子宮頸がん~検診とワクチンで予防を」と題し、市民健康講座を開催しました。当院産婦人科部長中川康の明快な解説で、検診の必要性が分かったと、好評を頂きました。

乳がん講演会について



平成22年9月25日(土)当院講堂において、ピンクリボンin和歌山、スマイルの会に協賛して、「はじめよう、乳がん検診。のりこえよう、乳がん。」と題した講演会を開催いたしました。

当院の長岡眞希夫外科部長、南和歌山医療センターの粉川庸三胸部・心臓外科医長、国際医療福祉大学三田病院の酒井成身形成外科教授の講演とパネルディスカッションを行い、80名を超える皆さんにお越し頂きました。多くの方から「乳がんの知識や早期発見の重要性がわかった」「参加してよかった」との声をいただきました。ありがとうございました。



災害対応訓練

平成22年9月4日(土)に大地震が発生し、被害者多数という想定で、災害対応訓練を行いました。災害時に適切な医療を提供するためにどのように行動すれば良いのかがよく分かり、とても有意義な訓練でした。

編集後記

社会保険紀南病院の基本理念には「私たちは、患者さまに優しさをもって接し、皆様から信頼される医療を目指します。」と謳っています。分かり易く言いますと「患者さまに優しい病院」、「職員に優しい病院」そして「地域と一体化できる病院」を目指しがんばっています。この高台にきて早いもので5年経ちましたが、今後も私たちは、当病院の理念である「患者さまに優しさをもって接し、皆様から信頼される医療」を大切にしながら、地域住民の皆様の期待に応えられる医療の提供ができるよう努めたいと考えています。

S・K

基本理念

社会保険紀南病院

私たちは、患者さまに優しさをもって接し、皆様から信頼される医療を目指します。

紀南こころの医療センター

やさしさをもって、信頼と満足の得られる医療を行います。

社会保険紀南病院

〒646-8588 和歌山県田辺市新庄町 46-70

Tel 0739-22-5000 Fax 0739-26-0925

<http://www.kinan-hp.or.jp>

Southern Cross
kinan hospital official information paper